

科目名	国際協力論特講	担当者	イチオカ 市岡 タカシ 卓	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル化の一層の進展、新興国の台頭、大規模な紛争の発生と難民・国内避難民の増加等の近年の国際情勢を踏まえ、国際社会の諸問題に対応するための国際協力のあり方について考察することを通じて、国際社会に対する深い洞察力を得ることを目的とする。</p> <p>そのための前提として、国際協力・開発に関する機構、制度、各分野での動向や課題、また、持続可能な開発目標（SDGs）と国際協力との関わり（どのような課題があり、どのように対応がなされているのか）についての知識を獲得する。また、具体的事例について調査し、最新時点の状況を踏まえて分析・考察を行う能力を身に着ける。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>国際協力に関する基本的な知識に基づき、SDGs と関連づけながら、国際的な支援が求められる具体的な課題について、十分な調査と考察に基づく解決策を提案できるようになる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>①国際協力に関する基本的な情報や考え方について、SDGs と関連づけながら理解する。（知識）</p> <p>②具体的な事例について文献やデータを探索し、調査・分析することで、自分なりの視点や考察結果を論理的に提示できる。（技能）</p> <p>③協力の対象となる社会の人々の立場を想像し、その社会の改善の方向を真摯に考える姿勢を身に着ける。（態度）</p>		
学修方略 （方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と十分に意見交換をしながら進める。 ・レポート案についての受講者同士のディスカッションなど協働学修を取り入れる。（アクティブラーニング） ・具体的な事実に基づく考察が不可欠であるため、教材・参考図書以外の書籍、論文、記事等についても十分に調査を行う必要がある。国際開発学会等の学会誌に掲載された論文や、ネットメディアの記事もチェックすることが求められる。 <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材・参考図書を熟読し、そこで示された関連文献も参考にしつつ、レポートのドラフトを作成する。ドラフトの前にスケルトン（骨子案）を作成すると、考察を進めやすい。【15時間／レポート1本】 ・さらに考察を深め、レポートの初稿案を作成し提出する。教員との意見交換を行い、さらに材料を集めたり考察を深めるべきポイントについて指摘を受ける。受講者同士のディスカッションにより互いに学び合う場も設ける。【15時間／レポート1本】 ・教員からの指摘を踏まえて内容の修正・充実を図り、レポートの最終稿を完成させる。【15時間／レポート1本】 		
スケジュール	<p>①受講開始から約1か月後の時点でレポート作成の方向性が定まらない場合は、教員と意見交換を行うこと。</p> <p>②レポートの初稿提出前のスケルトンあるいはドラフトの段階で、教員と意見交換を行うことを推奨する。</p> <p>③最終稿提出までにレポート案を提出してもらい、複数回の意見交換を行っていくので、遅くとも最終稿提出期限の1か月前には初稿を提出すること。</p> <p>④最終稿提出期限は学年歴に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	①教材の内容を十分に理解できているか。 ②教材以外の資料、文献等を十分に調査できているか。 ③独自の考察ができているか。 ④主張したいことを論理立てて明確に表現できているか。
	観察記録	20%	①初稿提出の期限（最終稿提出の1か月前）が守られたか（減点項目）。 ②最終稿提出までに教員と複数回のレポート案の交換ができたか。
履修者への要望	<p>事実に基づく適切な考察ができるよう、材料集め（調査）に十分な時間をかけていただきたい。また、レポートでは自分独自の考察をすることが必要であるので、すでに分かっていること、既存の研究で言われていることをまとめるだけではなく、自分の主張を最大限盛り込むよう取り組んでいただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 内海成治編 教材名： 『新版 国際協力論を学ぶ人のために』 (世界思想社, 2016年) ISBN:978-4-7907-1674-7 2,800円＋税
	世界各地での内戦発生とそれによる大量の難民流出などの近年の国際情勢を踏まえ、一方で、SDGsの採択による新しい国際協力の目標設定を前提とし、国際協力をめぐる問題について包括的に論じている。本書は、国際協力の意義、関係する制度や機関、分野別の動向、新たな課題など幅広いテーマを取り上げており、国際協力の全体像について理解する上で有益である。
参考図書	重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著『SDGs時代のグローバル開発協力論：開発援助・パートナーシップの再考』（明石書店, 2019年）ISBN:978-4-7503-4912-1 2,300円＋税 高井亨・甲田紫乃編『SDGsを考える：歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』（ナカニシヤ出版, 2020年）ISBN:978-4-7795-1468-5 2,800円＋税
履修上のポイント	まず、日本の取組みを中心に、国際協力の仕組みや分野別の課題について理解する必要がある。その上で、SDGsの採択に至る歴史的経緯、その思想的背景、具体的な内容、さらにはそれに対する批判的な見方を学ぶことで、SDGsに内在する課題について理解することが必要である。これらの学修を通じ、国際協力をめぐる問題について基本的な知識を身に付け、同時に、多面的に見る目を養ってもらいたい。
レポート課題 1	SDGsに対する批判を踏まえた国際協力のあり方について、自分の考えを論じる。(3,000～4,000字程度) 留意点： 参考図書も参照しながら、SDGsそのものに内在する課題について理解し、それを踏まえて論じる必要がある。
レポート課題 2	SDGsに示された目標を踏まえ、個別分野の国際協力の課題について、具体的なデータや事例をもとに考察し、自分の考えを論じる。(3,000～4,000字程度) 留意点： 最新時点の世界の状況について調べた上で、問題に対応するための国際協力の方向性について具体的に論じる必要がある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高松香奈 教材名： 『政府開発援助と人間の安全保障』 (日本評論社, 2011年) ISBN:978-4-535-55692-8 5,700円＋税
	ミャンマーにおける女性の人身取引の問題を対象とし、問題解決のための政府開発援助（ODA）による日本の協力のあり方について論じる。日本は性的搾取を目的とする人身取引被害者の最大の受け入れ国の一つでもある。また、ミャンマーはガバナンスが弱い脆弱国家と見なされている。本書は、人身取引を「人間の安全保障」に関わる問題としてとらえることで、「人間の安全保障」の実現に寄与する国際協力のあり方を再検討する。
参考図書	ハンター、アラン著『人間の安全保障の挑戦』佐藤裕太郎・千葉ジェシカ訳 (晃洋書房, 2017年) ISBN:978-4-7710-2804-3 2,500円＋税 長有紀枝著『入門 人間の安全保障：恐怖と欠乏からの自由を求めて 増補版』中公新書 (中公書店, 2021年) ISBN:978-4-12-192195-6 900円＋税
履修上のポイント	「人間の安全保障」のコンセプトの元には、単に援助される対象国が経済発展すれば問題が解決するものではないという考え方がある。その意味や、また、なぜそうなるのかを、教材および参考図書を精読することにより、十分に理解してもらいたい。さらに、自分でも具体的な事例について材料を集め調べる中で、「人間の安全保障」の考え方が必要とされる状況がどのように生じてきているのかについて、考察を深めてもらいたい。
レポート課題 1	「人間の安全保障」の考え方はどのように発展してきたかについてまとめ、その上で、国際協力に「人間の安全保障」の考え方をどのように取り入れるべきかを論じる。(3,000～4,000字程度) 留意点： 最新時点の状況について自分で調べ、論拠を示しながら論じる。
レポート課題 2	「人間の安全保障」の実現が特に求められると自分が考える分野における国際協力の進め方について、具体的なデータや事例をもとに考察し、自分の考えを論じる。(3,000～4,000字程度) 留意点： 教材の著者の「人間の安全保障」実現のための国際協力に関する論じ方も参考にする。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（国際協力とは何か）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（国際協力はなぜ必要か）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（日本の国際協力の仕組み、関係する機関）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（SDGs の策定過程と理念）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（SDGs に示された目標①：貧困・食料・健康・教育・ジェンダー平等）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（SDGs に示された目標②：経済・雇用・不平等是正）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（SDGs に示された目標③：環境）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（SDGs に示された目標④：平和・社会的包摂）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（様々な主体の参画）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（グローバルなパートナーシップ）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（「人間の安全保障」の意味）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（「人間の安全保障」概念の発展）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（何からの「安全保障」なのか ―安全を脅かす脅威とは―）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（開発援助と「人間の安全保障」との関係）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（「保護する責任」をめぐる議論）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（「人間の安全保障」の現代における意義）
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（日本の政府開発援助は「人間の安全保障」に寄与するか）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（脆弱国への政府開発援助に関わる問題）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（開発のための政策一貫性の導入）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（「人間の安全保障」実現のための開発援助とは）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する